

## 三井住友FL、2032年3月期の経常益3000億円目標 アセマネ業務に軸足

2026/05/11 20:20 日本経済新聞電子版 594文字

リース大手の三井住友ファイナンス&リース（SMFL）は、2032年3月期をメドに2500億～3000億円の経常利益を目指す方針を明らかにした。26年3月期の実績を3～6割上回る水準だ。航空機や不動産の運用業務を強化し資本効率の高いビジネスモデルへの転換を進める。

今枝哲郎社長が日本経済新聞の取材で明らかにした。同社は近く29年3月期の経常利益目標を2200億円とする中期経営計画を公表する。今枝社長は「航空機を資産としたアセットマネジメント事業を強化したい」と述べ、30年3月期以降の成長持続にも自信を示した。



資産効率の高いビジネスモデルへの転換を目指す

SMFLは傘下に不動産運用会社ケネディクス、航空機リース会社SMBCアビエーションキャピタル（SMBCAC）を抱える。26年4月にはSMBCACが住友商事やアポロ・グローバル・マネジメント、ブルックフィールドと共同で米航空機リース大手の買収を完了した。グループの機材数は約1800機にのぼる。

M&A（合併・買収）も引き続き成長戦略の柱に据える。今枝社長は「M&Aを使って利益を上げる事業投資のモデルにも踏み出していきたい」と話す。4月には組織改編を実施し、事業投資体制を高度化した。

デジタルトランスフォーメーション（DX）は新たな収益柱に育てる。自社開発のクラウドサービス「アセットフォース」を軸に外販を加速し、デジタルソリューションの提供社数を3500社超に伸ばしたい考えだ。

許諾番号NK002960 日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。

本サービスで提供される記事、写真、図表、見出しその他の情報（以下「情報」）の著作権その他の知的財産権は、その情報提供者に帰属します。

本サービスで提供される情報の無断転載を禁止します。

本サービスは、方法の如何、有償無償を問わず、契約者以外の第三者に利用させることはできません。

Copyrights © 日本経済新聞社 Nikkei Inc. All Rights Reserved.